

調査研究終了報告書

研究分野：地域保健情報の解析，評価及び活用に関する研究

調 査 研 究 名	油症検診を支援する患者データベースの構築
研究者名（所属） ○印：研究代表者	○片岡恭一郎，高尾佳子，小野塚大介，高山浩樹，飯田隆雄，吉村健清（福岡県保健環境研究所 情報管理課），古江増隆（九州大学大学院 医学研究院）
本 庁 関 係 部 ・ 課	保健福祉部・生活衛生課
調 査 研 究 期 間	平成15年度 - 17年度（3年間）
調 査 研 究 種 目	1. ■行政研究 □課題研究 □共同研究（共同機関名： ） ■受託研究（委託機関名：厚生労働省） 2. □基礎研究 □応用研究 □開発研究 3. □重点研究 □推奨研究 □ISO推進研究
ふくおか新世紀計画 第2次実施計画	大項目：平穏で安全な県民生活の確保 中項目：豊かで安心できる消費生活の確保 小項目：消費生活の安全性の確保
福岡県環境総合基本計画 （P20,21）環境関係のみ	柱： テーマ：
キ ー ワ ー ド	油症 データベース 検診 ACCESS
研 究 の 概 要	
1) 調査研究の目的及び必要性 本研究は，全国油症治療研究班の厚生科学研究の一環として行い，油症患者の全国統一検診データ（昭和61年度以降）をMicrosoft ACCESSを用いてデータベース化する．機能の設計に当たっては，検診現場での活用，油症研究者の支援を考慮しながら解析機能をもつデータベース化を目指す．現在の検診データは，汎用コンピュータ処理に適した形で保存されており，単年度の集計や簡単な図表作成に使われてきた．今回，取り組む研究では，これまで蓄積してきた検診データをパソコンによりデータベース化して，検診現場で，即時に，有効な形で閲覧が可能となるよう開発するものである．それによって集計作業の効率化，患者サービスの向上，油症研究者による広範なデータ活用を実現して，治療研究や治療対策の促進に寄与する．	
2) 調査研究の概要 1986年度からの検診票データ（内科，小児科，皮膚科，眼科，歯科，生化学・尿検査等）及び2001年度からのポリ塩化ジベンゾフラン（PCDF）等のデータをMicrosoft ACCESSテーブルに変換し，油症患者データベースを構築する．研究の方法は以下のとおりである．	
3) 調査研究の達成度及び得られた成果（できるだけ数値化してください） 平成15年度のデータベース（初期構築時）には，検診データとして，昭和61年度から平成14年度の受診者1043人を登録した．また，血液中ダイオキシン類の測定データは，平成13年度及び平成14年度に測定を希望した391人を登録した．データベースの構築後行われた検診データとして，平成16年度は359名（平成15年度分），平成17年度は330名（平成16年度分）の登録を行った．また，血液中ダイオキシン類測定データは，平成16年度は343名（平成15年度分），平成17年度は316名（平成16年度分）の登録を行った．	
4) 県民の健康の保持又は環境の保全への貢献 油症は昭和43年に福岡県・長崎県を中心に西日本一帯で発生し，患者の症状も徐々に軽快しつつあるものの，症状が停留しているものも見られる．そのため，患者一人一人の症状や検査データの経過蓄積は患者の高齢化が進む中，患者の健康管理の観点から重要である．また，治療研究や診断基準の見直しに対しても貴重なデータを提供することに繋がっている．	
5) 調査研究結果の独創性，新規性 旧来，検診データは，汎用コンピュータの処理に適した形で保存されており，単年度の集計や図表作成に使われてきた．データベース化により，昭和61年度以降の検診データがパソコンで閲覧可能となり，検診現場での患者サービスの向上，油症研究へのデータ活用，集計作業の効率につながった．	
6) 成果の活用状況（技術移転・活用の可能性） 例年行われている一斉検診において，11追跡班中10追跡班で使用されている．一斉検診データのみならず，その他に収集されたデータの収録及び参照機能の追加も順次行っている．	